

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	薬学応用Ⅱ		（TCM210）
講義名（コード）	TCM_薬学応用Ⅱ		（TCM210）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	日中医療通訳コース	単位数	2
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得す
全体の内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 内服アレルギー用薬の働き・主な配合成分
2	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 内服アレルギー用薬（鼻・眼科用薬）の働き・主な配合成分
3	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 皮膚に用いる薬（傷口等の殺菌殺菌消毒薬）の働き・主な配合成分
4	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 皮膚に用いる薬（痒み・腫れ・痛みなどの抑える薬）の働き・主な配合成分
5	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 皮膚に用いる薬（肌の角質化、かさつき等の改善する薬）の働き・主な配合成分
6	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 皮膚に用いる薬（ニキビ、水虫等を改善する薬）の働き・主な配合成分
7	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 歯や口中に用いる薬・禁煙補助剤（歯痛・口内炎用薬）の働き・主な配合成分
8	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 歯や口中に用いる薬・禁煙補助剤の働き・主な配合成分
9	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 滋養強壮保健薬・公衆衛生用薬（消毒）の働き・主な配合成分
10	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 公衆衛生用薬（殺虫剤・忌避剤）の働き・主な配合成分
11	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬成分
12	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 漢方処方の基本・製剤・生薬の相互作用・受診勧奨
13	学んだことを再度総復習する	後期講義の復習・テスト準備解説
14	テスト	テスト
15	テスト解説	テスト解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「医薬品登録販売者試験」テキスト&要点整理 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	